

令和元年度 第1回鶴見・あいねっと(鶴見区地域福祉保健計画)推進委員会 議事要旨

日時：令和元年7月9日(火) 15:00~17:00

場所：鶴見区役所6階8、9号会議室

推進委員：杉浦委員長、八森副委員長、

大野委員、加藤委員、川合委員、斉藤委員、神保委員、高橋委員、

富樫委員、西澤委員、福井委員、向井代理委員(烏田委員代理)

(欠席：押山委員、門脇委員、烏田委員、藤田委員、増子委員、渡邊委員)

※委員名簿については、別添のとおり

事務局：【区役所】

鶴見区長、副区長、

福祉保健センター長、福祉保健課長、高齢・障害支援課長、

こども家庭支援課長、生活支援課長、

地域力推進担当課長、地域力推進担当係長、

事業企画担当係長、福祉保健課職員

【区社会福祉協議会】

事務局長、事務局次長、区社会福祉協議会職員

1 開会

写真撮影の承認及び議事録のホームページへの掲載について確認

2 推進委員自己紹介

※資料1(鶴見・あいねっと推進委員会名簿)をもとに紹介。

委員長の新任挨拶を含め、新任委員から一言挨拶

3 鶴見区長挨拶

あいねっとの推進委員の皆さまには、日頃からそれぞれの分野でご活躍いただいている。あいねっとを推進いただくことに心強く思っている。今日はあいねっと第3期計画の残り2年と、第4期計画の話し合いを進める予定。地域の方にとっては、あいねっとは人と会ってネットワークを作るという意味で、「会うねっと」として浸透している。今日はしっかり議論をお願いしたい。

4 事務局職員紹介

5 議事

(1) 第3期計画の概要について(説明：事業企画担当係長)

※スライドをもとに説明(資料2(第3期鶴見・あいねっと概要版)参照)。

地域福祉計画は社会福祉法で定められた項目で、自治体毎に定めることになっている。地域福祉を総合的に進めるうえで大切な計画であり、これに基づき、保健の要素を加えて地域福祉保健計画が策定されている。鶴見区の計画は区計画と地区別の計画の2層で構成されている。区計画は3本の柱から構成されている。それぞれの地区では様々な取組が進められている。

あいねっとは、今年度が5年計画のうちの4年目となる。地域の方をつなぐ大切な計画のため、更に素晴らしい計画につながるよう取組をお願いしたい。

(進行役)

次は推進フォーラムの議題だが、後でご意見を伺うので、その点を踏まえて聞いていただきたい。

(2) 平成30年度推進フォーラムの振り返りについて(説明:事務局次長)

※資料3(平成30年度推進フォーラムのアンケート結果)をもとに説明。

「出かけよう!つるみはみんなが集うまち」というテーマで実施。

参加者は351名で、アンケートは171名から回収できた。

70代の参加が多く、基調講演や事例発表は概ね好評であった。

(3) 令和元年度の年間計画及び第4期計画策定体制について(説明:事業企画担当係長)

※資料4-1(第4期横浜市地域福祉保健計画概要版)、4-2(令和元年度年間計画(案))、4-3(第4期計画策定体制について)、4-4(鶴見・あいねっと第4期策定検討プロジェクトメンバー)をもとに説明。

市の第4期計画は、5つのポイントがある(資料4-1の4ページのとおり)。

区の第4期計画は、令和元年度、令和2年度で策定予定。策定に向け、区民アンケートを実施するとともに、プロジェクトメンバーを選出し、検討する。

(進行役)

策定プロジェクトは何回開催する予定か。

(事業企画担当係長)

令和元年度は2回を予定している。

(委員)

アンケートの結果が出ないと、検討ができないのではないか。

(事業企画担当係長)

アンケート結果を踏まえて、策定プロジェクトを開催予定。

(進行役)

前回のアンケートを踏襲しながら新しい項目を付け加えて、区がアンケートを実施する予定とのことだと思う。

→資料4-2、4-3、4-4を案のとおり承認。

(4) 令和元年度推進フォーラムについて(説明:事業企画担当係長)

※資料5(令和元年度推進フォーラム概要(案))をもとに説明。

令和元年度の企画については、委員の負担を軽減するため、企画委員を選出せずに事務局で行いたい。今年度は事例発表に力を入れて実施したい。

→資料5を案のとおり承認。

(進行役)

委員のご意見を反映するため、紙をお配りするので、フォーラムのアイデアやキーワードを1~2つ位、記載いただきたい。後で事務局で整理しながら企画してもらおうと思う。

(5) 話し合い <第3期の推進について>~地域の子ども達を地域で見守り、育てるに

は～

(進行役)

地域で子どもから大人までが関わる見守り啓発地域づくりの事例として、寺尾第二地区の「学んでご飯」の事例をご紹介いただき、その後各委員の皆さまから日頃の活動を踏まえながらご意見やご感想を伺いたい。

【事例紹介】

「学んでご飯」(発表者：馬場地域ケアプラザ職員)

※スライドにて説明。

地域の子どもがボランティアの高校生から勉強を教わり、その後地域のボランティアが手作りした食事を取って交流する取組を行っている。多世代で見守りながら、子どもを支援する交流の場であり、地域の子どもを地域で見守り、育てる取組である。会の全体調整は地区社協が行い、食事はヘルスマイト、学習支援は高校生、送迎支援は地域の見守り隊が協力をしている。この事業をきっかけに、個別支援につながった親子もいる。

(進行役)

事例発表をありがとうございました。多世代の方が関わり合えるしくみを作っているとのことだが、何か質問等がありますか。

(委員)

費用はどこが負担しているのか。どれ位の頻度で行っているか。

(発表者)

費用は地区社協が負担しており、頻度は2か月に1度で偶数月に年に6回実施している。

(委員)

学校等も関わり地域の色々な人が関わっているが、今後どのように支え合っているのか、その展望をお聞きしたい。

(発表者)

地区社協が中心になっており、地区社協の中心者が話をすると学校をはじめ、皆が協力してくれている。

(進行役)

参加しているは小学生15人位とのことだが、メンバーは同じなのか。

(発表者)

メンバーは地区社協等から声をかけていて、お馴染みの子もいれば、新しい子もいる。

(委員)

お手伝いするヘルスマイトさんがいるとのことだが、何名位手伝っているのか。

(発表者)

人は入れ替わっているが、毎回8～10名位の人が協力してくれている。

(委員)

夏休みに食事ではなくおやつを出して実施するのも効果的だと思う。

(発表者)

8月も開催して夏休みの宿題をやってもらった。

(進行役)

気になるお子さんをどのように支援につなげたのか。

(発表者)

母親が外国人で日本語が通じず、入院していた際に友人の世話を受けてこどもが参加したことがあった。食事を取れていないのではないかと心配があり、区社協から食料品の支援を受けた。

(事務局次長)

参加していたこどもの家族構成を聞いて、乳幼児や親も支援の必要性を感じたので、フードバンクの取組により、粉ミルクなど5日分の食料品を支援した。後日学校を経由して関係機関につながった。

(進行役)

そういったことをきっかけに、地域と関係機関がつながることがある。次に事例発表を踏まえて、それぞれの立場や地域での活動を通じて感じたこと、また課題などがあれば伺いたい。それではお願いします。

(委員)

地域での子育て支援は就学児が対象なことが多いが、未就学児とその親も多くの問題を抱えている。支援を必要としている親子は年々増えており、一時預かりの場は慢性的に不足し、親は不安な状態が続いていく。気軽に地域とつながれる機会と活動に参加できるきっかけを作っていきたい。母親は今は支えられる立場でも、次の支え手になっていけると考えている。

(進行役)

不安が取り切れない母親は、今は支援を受けているが、将来は支え手になるような地域づくりにつなげたらどうか等、具体的な方策をいただいたと思う。

それでは、次の委員お願いいたします。

(委員)

地域ケアプラザは高齢者の領域はある程度把握はできているが、こどもや障害者とのつながりが薄い。今度どうつながっていけるかを模索している。

(進行役)

こどもや障害者の支援に関する事例等があれば、ご紹介いただきたいとお話であったと思う。それでは、次の委員お願いいたします。

(委員)

配食を通じて利用者である高齢者に声をかけ、状況を地域ケアプラザに報告し、対応してもらっている。自分達はつなぎ役だと思っている。

(進行役)

お子さんとのつながりは、何かあるのか。

(委員)

こども達に対する下校時の見守りを毎日することで、つながりが広がってきた。

(進行役)

ありがとうございました。それでは、次の委員お願いいたします。

(委員)

市場地域でも学習支援を行っていて、指導等には地域のボランティアが協力している。運営には学校や地域の理解と協力が不可欠であり、地域の中でどれだけ事業を通じて見守りの趣旨を積み上げていけるかが課題である。

(進行役)

地域ぐるみで子育てしていくためにどのような仕掛けがあったのか、事務局でも良いので教えてほしい。

(事務局次長)

事例にあった寺尾第二地区は、もともと地域で見守りに取り組んでいた。自分の役割をきっちり認識し取り組むことでこどもの見守りに醸成されていったのだと思う。

(進行役)

一人の人が様々な役割を担う中で、地域に考え方が浸透して広げていくことができたということだと思う。それでは、次の委員お願いいたします。

(委員)

こども食堂は2、3年前までは「貧困」が中心だったが、近年は「つながり」が中心になっていることに気づかされた。老人クラブとしては、現状では関わる事ができていないが、関わる事ができれば、活動の幅が広がると思っている。世代間交流のために、高齢者が関わっていけることもあるのではないか。

(進行役)

こども食堂に老人クラブも関わりを持つことで、新たなつながりができてくるのではないか、「食」や「こども」の切り口は地域とのつながりができるきっかけになるのではないかとのご意見だったと思う。それでは、次の委員お願いいたします。

(委員)

介護者の横のつながりができてきた。また、当事者が参加できる場も増えてきた。こども好きの高齢者も多いため、今後はこども、高齢者、介護者が集える人と場所と地形があると良い。

(進行役)

認知症の人や介護者の集う場が増えてきているのは、あいねっとの成果だと思う。地形的に遠くまでいけないので身近な所で支援するしくみがあったら良い、多様な人がつながる中でこどもをキーワードにするのも良いのではないか、地域でこどもを育てていこうとのお話だったと思う。

(委員)

近年軽度の知的障害者数が増加している。そんな中、親の不安が強く、親のニーズとこどものニーズのギャップに福祉施設の職員は悩んでいる。また、放課後等デイサービスといったサービスの選択肢が増えていく中で、親は地域ではなく公的サービスにつながりたいという思いが強い。こどもにとっては、地域とつながれることは大事なため、今後は専門職だけではなく、地域ともつながりを作っていきたい。公助に共助という地域の支え合いの視点を確認していく必要がある。

（進行役）

障害者が社会の中で生きていく上で公的サービスを受けていくが、専門職だけではなく地域が行っている色々なサービスとのつながりも持っていくことが必要ではないかとのお話だったと思う。それでは、次の委員お願いいたします。

（委員）

最近はこどもの交通事故の話を良く聞くが、交通安全対策を見直し、保育園に任せるのではなく、行政がチェックすることも必要ではないか。

また、地域では災害時要援護者の見守りなどを進めている。災害対策として重要なので、地域の関心が高まる切り口で取組を進めていく。

（進行役）

安全対策のお話で、地域とつながり安全な場所を増やそうとのことだったと思う。行政の力も必要であり、地域から具体的な声をあげて行政と共に考えていくことも必要とのお話で、あいねっとの検討等も一緒にやっっていこうとのことだと思う。

それでは、次の委員お願いいたします。

（委員）

多世代交流と大家族の要素が似ている。核家族化が進む中、以前のような大家族の形態に戻すことは難しいが、事例のような取組は、次世代における工夫につながっていくのではないか。

（進行役）

次の世代の「大家族」とは何かという課題提起であり、多世代交流や地域の見守りがヒントになるとのご意見だったと思う。

（委員）

下末吉地区は高齢者が多く、一人暮らしが多い。月に1度会食会を開催しているが、段々と高低差の激しい地域からの参加が少なくなってきている。この事例のように、送迎支援があると外出する人が増えるかもしれない。障害者施設で地域のつながりが強いところは、利用者やその家族が地元に来てくる。地域とのつながりを積極的に加えられると良い。

（進行役）

施設と地域がつながると、専門職との関わりをもちながら地域とのつながりができるのではないかとのお話だと思う。最後に、委員長お願いいたします。

（委員長）

高齢者向けの会食会やサロンが増加しているが、こどもと親の居場所づくりも必要である。そういった居場所の中で、こどもを理解して、認めてあげることが大事だと思う。

(進行役)

こどもや親に不安があるのは、認められることが欠如しているからではないかとのご意見だと思う。今日の議論では、身近な人と会えて、色々な人と交わりながら、認められる状況を作ることが大事なのではないか、人をつなぐのに、「食」や「こども」の切り口は良い、また、災害から守るには地域のつながりが必要とのご意見もいただいたと思う。

それでは時間となったので、議論はここで終わりにしたい。

次に、資料6（令和元年度つるみ・地域元気づくり事業補助金対象事業のご紹介）について、事務局から情報提供をお願いします。

(6) その他

つるみ・地域元気づくり事業について（説明：地域力推進担当係長）

※資料6をもとに説明。

今年度補助金は10団体に交付し、新規はそのうちの6である。

来年度の取組を進める中で、検討をしている団体があれば勧めていただきたい。

(進行役)

各委員から何か情報提供がありますか。

→特になし

6 閉会

(委員長)

熱心なご討議をありがとうございます。本日の推進委員会はこれにて閉会いたします。ありがとうございました。

鶴見・あいねっと推進委員会 委員名簿

令和元年7月9日現在

氏名	団体・役職名	活動概要	備考
1 大野 鎮夫	鶴見区社会福祉協議会 ボランティア・市民活動団体分科会 分科会長	サークル鶴の恩返し代表として配食の配達や日常生活支援のボランティア活動を実施	
2 押山 道代	横浜市乳幼児一時預かり施設 まめっこひろば リーダー	鶴見区獅子ヶ谷で乳幼児の一時預かり施設を運営	
3 加藤 賢次	鶴見市場地域ケアプラザ所長	地域福祉の拠点として相談窓口や様々な事業を実施	
4 門脇 正司	鶴見区スポーツ推進委員連絡協議会 会長	スポーツ推進のための事業実施や指導助言を実施	
5 烏田 次雄	鶴見区老人クラブ連合会 会長	高齢者の生きがいや健康づくり活動を推進 区内老人クラブ数:117クラブ	向井 承雄 (代理出席)
6 川合 桃江	鶴見区介護者の会 おりづる会 世話人代表	介護者同士の相談や情報交換活動を実施	
7 斉藤 達之	つるみ地域活動ホーム 幹 施設長	地域の障害者福祉の拠点として様々な支援を実施	
8 神保 修治	鶴見区民生委員児童委員協議会 会長	地域福祉を支援する身近な相談役として活動	
9 杉浦 節子	鶴見区自治連合会 福祉部長	住民のつながりを基盤とする地域活動を実施	委員長
10 高橋 真登香	潮田地域ケアプラザ 所長	地域福祉の拠点として相談窓口や様々な事業を実施	
11 富樫 あかね	鶴見区地域子育て支援拠点 「わっくんひろば」施設長	子育て相談や子育て情報の提供等を実施する子育て支援拠点を運営	
12 西澤 昭彦	鶴見区民生委員児童委員協議会 副会長	地域福祉を支援する身近な相談役として活動	
13 八森 淳	株式会社メディコラボ研究所 代表取締役	地域医療やケアの現場で広く医療活動に従事	副委員長
14 福井 司臣	精神障害者家族会 鶴見区家族会 のぞみ 会長	精神障害者家族の相互扶助や周囲への理解を深める活動を実施	
15 藤田 美智子	鶴見区障害児・者団体連合会 会長	障害児者に対する社会理解を深め、関係団体の連携を強化や障害者の社会参加及び自立促進のために活動	
16 増子 眞智子	鶴見区保健活動推進委員会 会長	地域の健康づくり活動を推進	
17 渡邊 浩	鶴見区保健活動推進委員会 副会長	地域の健康づくり活動を推進	

(五十音順)